令和７年６月３０日

秋田市長　沼　谷　　純　様

秋田南中学校・築山小学校・中通小学校
併設校整備に伴う基本・実施設計業務に
関する公募型プロポーザル審査委員会
委員長　井　上　　誠

審査結果報告書

秋田南中学校・築山小学校・中通小学校併設校整備に伴う基本・実施設計業務に関する公募型プロポーザルについて、第４回同プロポーザル審査委員会において技術提案書等を審査した結果、次のとおり最優秀提案者を選定したので報告します。

１　最優秀提案者　【Ｃ者】草階・コードアーキテクツ設計共同企業体
代表者　株式会社　草階建築創作所
代表取締役　佐藤 幸喜

２　審査の経過と結果

⑴ 参加資格等の審査

提出期限である令和６年１２月１８日までに参加表明書の提出があった４者を技術提案の提案者として選定した。

⑵ 技術提案書の審査

令和７年５月２２日に各提案者のプレゼンテーションとヒアリングを実施し、審査を行った結果、審査委員６名の評価点の合計が最も高かった草階・コードアーキテクツ設計共同企業体を最優秀提案者に選定した。

⑶ 評価集計表

提案者	A者	B者	C者	D者
評価点 (600 点満点)	430.2	430.6	510.4	507.4
結果	4	3	最優秀提案者	優秀提案者

３　講評

本プロポーザルは、小学校２校の統合校と中学校を併設した小中併設校整備の設計者を選定するものであるが、限られた敷地における大規模な学校であること、小中併設校の施設計画や空間づくり、建築コスト縮減への方策など多くの課題がある中、プロポーザル参加者からはこれまでの経験や技術を生かし、児童生徒や教職員のことを第一に考えた技術提案をいただいたことに感謝を申し上げたい。

技術提案については、建物配置や平面計画に対する提案の自由度は低い設計条件であったと思われるが、多様な学習活動の場や交流スペース、最適な建物構造の考え方については、各提案者の特徴が表れていた。一方で、提案内容の実現性の検討という点では、やや差が見られたように思われた。

最優秀提案者となった草階・コードアーキテクツ設計共同企業体（Ｃ者）の提案は、校舎の中心に中庭を設けたロの字型のシンプルな建物形状で、教室配置も明快なものとなっており、中廊下式の教室配置とし、面積効率を高めることで、学習環境の充実を図っているほか、中庭広場やテラスは、それぞれ図書室（メディアコモンズ）や理科室などとも一体的な使用を想定されており、多様な学びの場、遊びの場として魅力的な空間となっている点が評価できる。

また、ランニングコストの縮減、省エネや維持管理への配慮が示されており、中でも工事費に関しては、具体的な比較に基づいた提案がなされていた点が評価された。

メインの駐車場は、児童生徒の安全確保や景観についても考えられているほか、中庭広場はグラウンド整備完了までのサブグラウンドとしての活用も提案されており、施設全体の工事が完了するまでの学校活動への配慮がなされている。

同企業体からは様々な外部空間が提案されているが、積雪時でも使用できる工夫や、下足棚を経由せずに中庭やテラスに出られる工夫などにより、さらに実用的な空間となるものと考えられる。加えて、同企業体が提案している鉄骨造には、一般的な課題として、防音・断熱・防錆・耐火・結露といった環境的課題や維持管理計画の明確化などが挙げられることから、学校関係者と教育委員会との継続的な協議および今後の丁寧な対応により、より良い学校が整備されることが期待される。

優秀提案者となったD者の提案は、校舎の中心に図書室や調べ学習、発表等を行うメディアセンターを配置し、学びのつながりや異年齢交流を活発化させる空間となっている。また、小学５、６年生と中学１年生を同じフロアに配置し、「中一ギャップの解消」を図っている点や、文部科学省が掲げる新しい学びの実現として「ＳＴＥAM教育」を実施するための環境を設けている点など、細かな配慮や提案がされているほか、詳細な工事工程の検討がされている点も評価できる。

しかし、複雑な建物形状や大きな吹き抜けを有することなど、イニシャルコストやランニングコストが掛かり増しとなる可能性があることや工事期間中の仮設駐車場のためのスペース確保に疑問が残ることから、総合的な評価として最優秀提案者に及ばなかった。

Ｂ者の提案は、唯一、建物構造の大部分に木造を採用する提案である。景観や環境配慮、森林資源の循環利用という点で、有数の森林県である秋田で木造校舎を建てることは大変有意義であると思われ、木材調達方法の具体的な提案もあり、木材利用に対する意気込みが感じられた。一方、学習空間、生活空間として、様々な多目的スペースや交流スペースが設けられているが、その空間の使用目的や建築コスト比較、今後の維持管理・耐用年数に関する検討について、やや具体性に乏しい印象もあり、高い評価を得るには至らなかった。

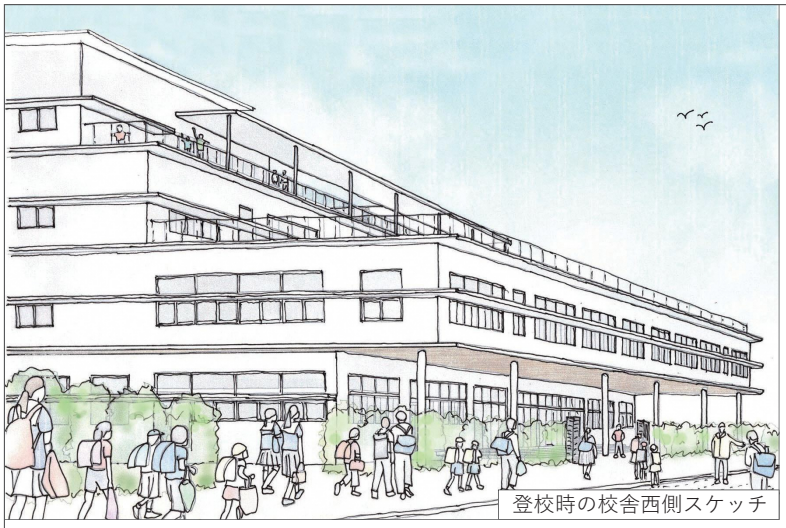
Ａ者の提案は、教室棟の様々な箇所に学習スペースを設け、多様な学習だけでなく、児童生徒、教職員の交流を促している。また、建築コストだけでなく解体費用の比較を行い、ライフサイクルコストの縮減を見据えて鉄骨造を採用している点は評価できる。一方で、校舎全体や各教室の規模設定、コスト縮減に関する考え方には整理の余地が感じられ、動線計画についても、さらなる具体的検討が望まれる部分があった。

４　審査委員

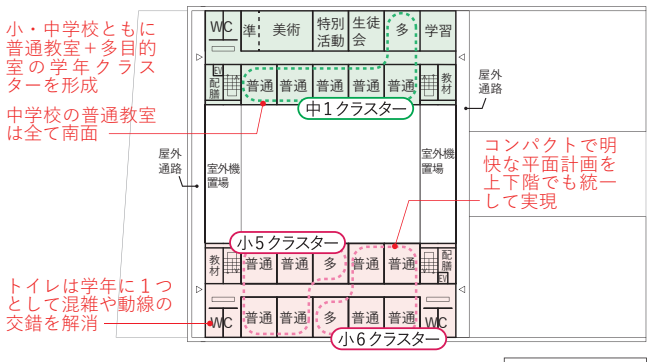
委 員 長　　井上　　誠　（秋田工業高等専門学校　創造システム工学科　教授）
委　　員　※井上　宗則　（秋田公立美術大学　景観デザイン専攻　准教授）
委　　員　　田仲　誠祐　（秋田大学　教育文化学部　非常勤講師）
委　　員　　鈴木　孝友　（秋田市立秋田南中学校　ＰＴＡ　会長）
委　　員　　船木　　格　（秋田市立秋田南中学校　校長）
委　　員　　小林　　丞　（秋田市教育委員会　教育次長）
委　　員　　古谷　大助　（秋田市建設部建築課　課長）
（人事異動等により任期途中で辞任された委員）
委　　員　　鈴木　　太　（前　秋田市立秋田南中学校　校長）
委　　員　　鈴木　善之　（前　秋田市建設部建築課　課長）
委　　員　　柳田　義人　（秋田市子ども未来部　部長）
委　　員　　古田　明彦　（秋田市建設部建築課　参事）

※井上宗則委員については、技術提案書の審査に関し、社会通念上の疑義を持たれる可能性がある者からの応募があったため、第３回同プロポーザル審査委員会での審議を経て、審査に係る事務は行わないものと決定した。そのため、第４回同プロポーザル審査委員会には参加しなかった。

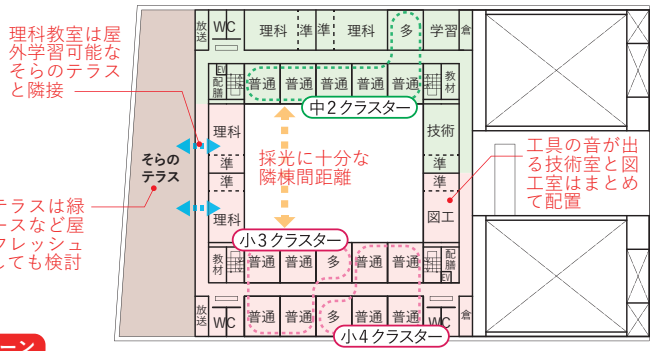
【概要版】児童生徒および教職員のための学校づくりの考え方について



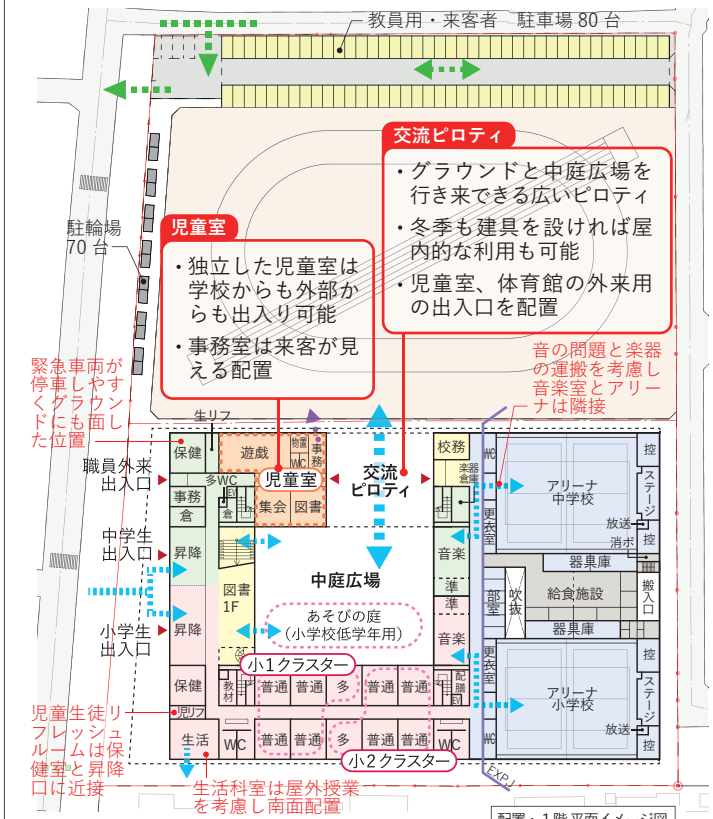
登校時の校舎西側スケッチ



４階 平面イメージ図



３階 平面イメージ図



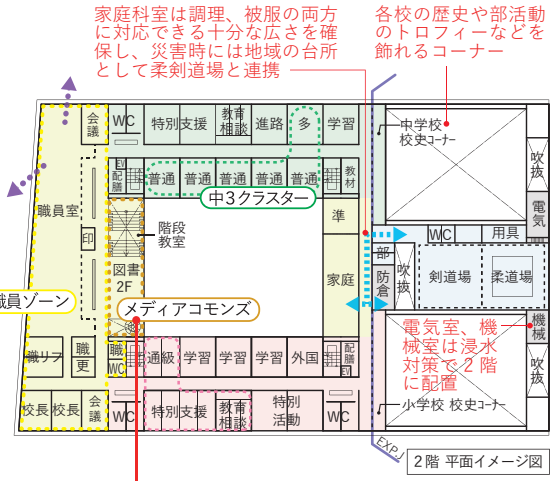
配置・１階 平面イメージ図

凡例
小学校　共用　体育施設
中学校　児童室　給食施設，その他
児童・生徒 動線　車両 動線

N

教職員ゾーン

- 小中学校棟を繋ぐ西側に配置し教職員の連携を促す
- 教員同士の打合せテーブルや、児童・生徒との相談カウンターの設置も検討
- グラウンドと校門を見渡せる職員室



２階 平面イメージ図

メディアコモンズ

- ２階まで連続する図書室と階段教室エリア
- 施設の中央に配置され、中庭広場に面した全学年の交流スペース
- アクティブラーニングなど、多様な学習シーンが可能な新しい学びの場

独立と連携を可能とする回遊型小中併設校　　異年齢の繋がりを考慮した学習環境と地域交流との共存を目指して

効率的な中廊下式教室と隣棟間隔をとった中庭型校舎

- 小、中学校とも学年ごとに各階でまとまり（クラスター）を形成し、静と動の学習空間をコンパクトに実現します。
- 十分な幅（約３ｍ）の中廊下は、家具や建具などの工夫をすることで対面する多目的室を一体的に利用するなど、可変的で多様な学習の場を作ることが可能です。
- 採光に十分な隣棟間隔を確保し、中庭広場を整備します。

明快なゾーニングと回遊性を併せ持つ平面計画

- 小学校棟を南側、中学校棟を北側に主に配置し、それらを西側の共有ゾーンと、東側の体育館ゾーンが繋げます。
- 明快かつ回遊性を持った平面計画は、併設校としての連携を円滑に、異年齢交流を促進し、連帯感を生み出します。

児童・生徒の体格差に考慮した安全安心な学校建築

- 特に体格の差が大きい小学校は、低学年と中高学年の動線が極力交わらないよう、低学年利用が想定される特別教室を１階に配置します。
- 広い中庭広場の一部は、小学校低学年用の安心安全な「あそびの庭」として整備し、あそびの庭に通じる図書室１階は小学校低学年の利用を想定しています。

ワークショップによる併設校の在り方を具現化

- 有効に利用運営される施設を計画するために、適切なタイミングで教職員や関係者とのワークショップを行います。教職員ゾーンや地域開放の在り方、諸室の配置など、学校関係者の連携イメージとすり合わせて設計に反映します。